

令和5年度高付加価値旅行者実態調査事業について

1 調査目的

- 訪日外国人旅行者の回復が見込まれる中、地域経済活性化のためには消費額拡大が重要であり、観光消費の旺盛な高付加価値旅行者の誘客が欠かせない。
- 高付加価値な観光地域づくりの推進には、高付加価値旅行者の滞在実態把握とニーズに応じた施策の展開が必要であり、県内での受入れ実態と課題、ニーズ等を調査するもの。
※高付加価値旅行者：訪日旅行1回当たりの総消費額100万円／人の旅行者（観光庁HP）

2 調査方法

- 海外の高付加価値旅行者が滞在すると想定される地域の観光従事者（宿泊施設、飲食店、通訳ガイド）や旅行者に対し、高付加価値旅行者の滞在状況、旅行者が感じる富山の魅力、インバウンド受入れにあたっての地域の課題やニーズ等をヒアリング。
 - ・R5.8～R6.2 ヒアリング調査実施

3 調査結果（概要）

【ヒアリングで聞かれた主な意見等】

（1）高付加価値旅行者の滞在

- 既に高付加価値旅行者が滞在しているエリアが県内には存在。立山エリアの自然、伝統工芸、食の魅力、散居村など、魅力あるコンテンツを求めて来訪している。
- 来訪者は日本への旅行経験（ゴールデンルート等）がある方が多い。

（2）地域の滞在価値

- 海外エージェントは、富山には幅広い魅力が揃っていると評価。ストーリーをもった説明で、更に関心を高めてくれる。
- 食とクラフトはレベルが高く、高付加価値旅行者に好まれる。
- 高付加価値旅行者の誘客には景観が非常に大事。

（3）課題

- 高付加価値旅行者をターゲットとする場合、一定数の客室や設備を備えるラグジュアリーホテルがあれば良い。そうしたホテルがあればブランド力、知名度向上に繋がる。
- 高付加価値旅行者の滞在に対応できる人材、事業者（ランドオペレーター）が不足。
- 海外エージェントと接点を持てる機会やプロモーションの継続は重要。